

全国学力・学習状況調査の結果について

揖斐川町教育委員会

平成31年4月18日に実施した、全国学力・学習状況調査の揖斐川町の結果をお知らせします。

1 調査の概要について

(1) 目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

- ・小学校第6学年及び中学校第3学年

(3) 調査事項

- ・教科に関する調査：(小学校)国語・算数 (中学校)国語・数学・英語
英語については、初めての実施である。
- ・児童生徒質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- ・学校質問紙調査：学校における指導方法に関する人的、物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

2 児童生徒の学力の状況について

《小学校》

- ・国語・算数とも、全国平均を数ポイント下回る。

《中学校》

- ・国語・数学・英語とも、全国平均を数ポイント上回る。

3 児童生徒の質問紙調査について

《小学校・中学校に共通していること》

◇地域とのつながりについて

地域の行事に参加している児童生徒の割合は全国と比べてかなり高い。地域との繋がりが強く、地域の教育力も高い結果と捉える。関連して、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」という質問に対し、小学校は全国と同じ、中学校は全国よりも12ポイントほど高い結果である。

◇学級生活、学級活動について

「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」や、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思うか」については、全国よりもかなりよい結果である。自分たちの生活を自分たちでよくしていくことの大切さを理解し、実践していることが分かる。

◇第3次岐阜県教育ビジョンにおいて「目標」と示された内容の質問に対しては、どの項目も全国を上回っている。

- 工夫して発表していること
- 地域や社会をよくする思い
- 夢や目標がある
- 話し合い考えを認め広げる

《小学校》

◇児童の自己肯定感について

児童の自己肯定感が低いことが、本町のこれまでの課題であった。しかし、今年度は、県や国よりもよい結果である。

また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問も、よい結果となっている。教師が児童のよいところを認め指導してきたことが、児童の自己肯定感の高まりに繋がっていると捉える。

◇読書について

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に対する児童の回答は、これまであまりよい結果ではなかった。そこで平成29年度より、本をあまり読まない児童（まったく読まない～30分程度）の指導を重点的に行ってきた。

30年度は、本をあまり読まない児童の数値が29年度より10ポイントほど低くなり、成果がみられた。今年度は、30年度とあまり変化はない。引き続き、学校と家庭が一体となつての指導が必要である。

◇その他の質問は、殆どが県や全国よりも高いか、同じ程度という結果である。

《中学校》

◇「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問に対して、当てはまらないと回答した生徒は、0%であった。どの先生も熱心に分かるまで教えているという熱意が生徒に伝わっている結果である。

◇ほとんどの質問において、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計すると、全国よりも高い結果である。

しかし、学校に行くのは楽しいと思う生徒の割合や、自己肯定感が高い生徒の割合は、全国と比べ、やや低い結果である。

学校では、学級で課題を見つけて話し合い、課題解決のために全員で取り組み、達成感を味わう指導を行っている。生徒一人ひとりが得意とする教科や活動があり、学校生活の中で楽しさを見つけて活動できているという姿に向かって、今後も指導を続けたい。